

「地盤工学会誌」 読者アンケート集計結果

「地盤工学会誌」2 月号 (Vol.65 No.2)

特集テーマ: 地熱エネルギーと地盤工学

回答人数: 30 人 / 50 人中 回答率 60%

① 最も興味深かった記事について

【1位】 報告(投稿): 丘陵斜面下部に分布する想定し難い地質分布の 2 事例—
崩積土の下に厚い沖積粘土と支持基盤の傾斜の例—

【2位】 寄稿: 風化現象と変形挙動の記述

【3位】 総説: 地熱発電開発の国内外の動向

【3位】 報告: 地熱開発のための物理探査技術

② 自由意見欄

I 記事に対するご意見

1	吉見吉昭氏の「航空工学から…俊英たち」は、近代の地盤工学史といえるもので、興味深かった。
2	寄稿「風化現象と地形挙動の記述」について、風化に伴う地盤の変形や破壊予測に対し、スレーキングを考慮した構成則開発のアプローチに、とても興味を持ちました。北海道でも多数分布し、これまでも現場で耐不同沈下、耐変形に苦労してきたので、今後の研究動向に注目していきたいと感じました。
3	地盤工学と環境分野はとても近傍の領域で親和性が非常に高いと思います。地盤工学を学んでいる者として地盤にかかわる種々の問題について学ばなければならないと記事を読んで思いました。
4	「航空工学から地盤工学へ・・・」は、私の恩師に関する記述があり、大変懐かしく、かつ、嬉しく思いました。「風化現象と地盤挙動の記述」も海外工事でスレーキングに悩まされたことがあったので、興味を持って読みました。
5	理解しやすい内容でよかった
6	今回の特集「地熱エネルギーと地盤工学」は、知っているようで詳しくないことについて明快に解説されているものが多く、知識を深めるうえで非常に有用であったと思います。日本でも需要が増えつつあり、また国際競争でも優位な立場にある分野はそれほど多くないと思うので、地盤工学会としても力を入れていく分野になるのではないかと感じました。
7	地熱エネルギーの特集はとても新鮮だった。 今後も地熱だけでなく、自然エネルギーの特集に取り組んでもらいたい。
8	地熱エネルギー関係の技術情報をまとまって目にする機会がこれまであまりなかったもので、非常に興味深く読ませていただきました。また、若手会員にとって

	は土質工学会時代の巨星を知ることにもあまりないと思うので、“寄稿：航空工学から・・・”のような記事は学問の歴史・発展の経緯を感じさせる上で貴重な投稿だったと思います。
9	本号の三陸沿岸の支持層傾斜の事例をみて、支持層推定時の注意意識をより強くした。概略設計の支持層推定に対し、地形・地質・地歴条件から懸念されるポイント（本事例では丘陵斜面・崩壊地形等）をよく確認する必要があると痛感した。
10	支持層の傾斜事例について、実際の現場で設計と想定内容が大きく異なる場合では構造物に大きな変状が生じるなど、大変重要な事例であると思います。特に、地質調査は数多く行うことが望ましいのですが、費用との兼ね合いもあり、調査位置の選定などが非常に重要となってきますので、今回の事例は大変貴重な情報であったと思いました。
11	本号で紹介された南三陸の支持層傾斜の事例報告を見て、支持層の推定誤りに対する注意の意識をより強くした。地形地質（丘陵斜面、崩壊地形）条件や地歴条件をよく確認し、概略設計の支持層推定に対して注意することが重要だと感じた。
12	アイスランドの事例のように、地熱エネルギーを活用して住民の心が豊かになるようにしてほしい。

Ⅱ 今後取り上げてほしい記事

1	側方流動
2	・南三陸の支持層傾斜のような支持層の想定誤りによる基礎杭のトラブル事例報告を取り上げてほしい。 ・造成工事における土工管理の最新 ICT 技術、自動化施工技術の事例が知りたい。
3	今回同様に、実際起こった事例などを盛り込んでいただければと思っております。
4	・支持層推定による基礎杭トラブル事例 ・造成工事における土工管理の最新 ICT 技術、自動化施工技術
5	ニューマチックケーソン沈設のような除荷型の工事における施工管理やトラブル対策（盛土のような載荷型の工事では、土質力学的に比較的なめらかに変形が増加するのに対し、急激な破壊現象が生じ）
6	海外プロジェクトについて。 大学の研究室特集。
7	盛土により発生する新規すべりの形態
8	メンテナンス手法について知りたいです。
9	・地盤調査技術の動向、新技術の紹介 ・異常降雨における災害事例とその対応 ・火山灰質粗粒土、細粒土の力学特性 ・地すべり地区の最新のモニタリング技術
10	山手の台地と下町の低地に焦点をあてた地震動の挙動、近代の地盤工学史